

■追悼文

加藤元一郎先生を偲ぶ

認知リハビリテーション研究会代表世話人を務められた加藤元一郎先生には平成27年3月3日にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

加藤元一郎先生が慶應義塾大学の精神神経科学教室に入ってきた日のことを、昨日のこのように思い出します。会ってすぐに、そのバイタリティと優しさ、そして昔の旧制中学を想わせるようなバンカラとっていい雰囲気有加藤先生とはすぐに気が合い、それから38年、一緒に勉強し診療してきました。本当の意味での同僚でした。

30年以上前、神経心理学研究班を作る時、前頭葉を研究テーマにといういささか大風呂敷な提案に、加藤先生は思いっきりやりましょとすぐに賛成され、それから前頭葉の研究が始まりました。前頭葉損傷で特異的に成績低下を示す検査を検討すれば、その検査の構造の中に前頭葉症状を反映するものがあるという考えで、前頭葉検査に関する内外の文献を調べ上げ、検査を作成し研究が始まりました。加藤先生の情熱、バイタリティがあってこそできた研究でした。沢山の検査を手作りし、沢山の論文を読み、毎日熱くも楽しい議論をしました。研究成果の発表に外国の学会には何度も出かけ、加藤先生はいつも堂々と海外の学者と議論をしていました。飛行機嫌いの私に付き合わされ鉄道好きになってしまったのもその頃でした。

また高次脳機能障害の認知リハビリテーションの症例をゆっくり検討するために、平成7年に「認知リハビリテーション」研究会を立ち上げる時も、加藤先生は本田哲三先生とともに中心的役割を果たされました。「認知リハビリテーション研究会」は今年で25回になり、加藤先生は平成



24年よりは代表世話人として研究会の発展に大変に尽力されました。研究会の会場で、いつも多くの若い方々に囲まれて質問攻めに合い、笑顔で答えている加藤先生の姿を思い出します。また本年12月には、会長として「前頭葉」のテーマのもと第39回日本高次脳機能障害学会学術総会を開催することとなっていました。加藤先生の「前頭葉研究」の集大成と期待していた矢先のあまりに突然のご逝去でした。今年の学会に誰を呼ぼうかと、加藤先生の部屋で話合ったのは去年の12月でした。今でも研究室をノックすると、ジャズが流れる部屋の中で、本の山の中から加藤先生が笑顔で立ち上がる姿がありありと浮かびます。

神経心理学そして精神医学において長年指導的立場にあり、多大な業績を残し沢山の人を育ててこられた加藤先生、卓越した研究者であり素晴らしい臨床家であった加藤先生、本当にありがとうございました。どうぞ安らかに眠りください。

平成27年8月

鹿島晴雄

加藤元一郎先生 ご略歴

- 昭和55年 慶應義塾大学医学部卒業
平成5年 東京歯科大学市川総合病院精神科助教授
平成14年 慶應義塾大学助教授 (医学部精神神経科学)
平成18年 スタンフォード大学医学部・脳科学研究センターに留学 (visiting professor)
平成19年 慶應義塾大学准教授 (医学部精神神経科学)
平成21年 第46回ベルツ賞 (一等賞) 受賞
平成25年 慶應義塾大学ストレス研究センター長・教授 (医学部精神神経科学)

日本高次脳機能障害学会 理事

日本神経心理学会 理事

日本産業精神保健学会 理事

日本精神神経学会 代議員

認知リハビリテーション研究会 代表世話人

American Academy of Neurology Corresponding Fellow